

プレスリリース

2022年12月16日
国境なき医師団 (MSF)

WHO が薬剤耐性結核患者に対する新たな治療法を推奨——治療や検査の価格低減ですべての患者にアクセスを

国境なき医師団 (MSF) は、薬剤耐性結核に対する臨床試験「TB-PRACTECAL」を 2017 年より主導してきた。従来の治療法よりはるかに有効性が高く、治療期間も大幅に短縮できる同臨床試験の画期的な結果を受け、世界保健機関 (WHO) は 12 月 15 日、多剤・リファンピシン耐性結核 (MDR/RRTB) (※) 感染者を対象に、新たな結核治療法の正式推奨に踏み切った。MSF はこの決定を支持する一方、より多くの患者が新たな治療を受けるためには、新しい治療法や検査にかかる価格の低減が必須だと訴えている。

従来の 4 分の 1 の治療期間に

MSF による「TB-PRACTECAL」臨床試験では、最長 24 カ月間を要する従来の治療法に代わり、ベダキリン、プレトマニド、リネゾリド、モキシフロキサシンを使用した新しい結核治療法 (総称 BPaLM) を 6 カ月間使用することで高い治療効果が得られるという画期的な結果が出ている。

12 月 15 日に WHO は、多剤・リファンピシン耐性結核 (MDR/RRTB) 感染者を対象に、この BPaLM 療法を推奨すると明らかにした。WHO はまた、フルオロキノロン耐性のある患者に対して、同じく従来よりも短期で治療が可能となる 2 つ目の短期治療法、3 剤併用療法 (BPaL) の使用を推奨している。

WHO の『2022 年 世界結核レポート』では、薬剤耐性結核患者の 3 人に 1 人しかいまだ治療を受けておらず、さらに、治療を受けた人の治療成功率は世界で 60%と低調であることを強調している。今回の新たな治療法の推奨は、世界の結核治療にとって革新的な展開であり、全ての政府は、迅速にこの重要な変更を治療ガイドラインに反映の上、現場での実施につなげていくことが求められている。

治療法導入に立ちはだかる価格の壁

MSF アクセスキャンペーン 結核医療アドバイザーで医師のイラリア・モッタは、「WHO の決定は薬剤耐性結核患者にとって記念すべき出来事です。しかし、政府にとって、患者全員に改善された治療法を提供するためには、一回の治療にかかる総額を 500 ドル (約 6 万 8745 円) 未満に抑える必要があります。現在の価格はまだ 700 ドル (約 9 万 6243 円) とこの額を大きく上回っている

ため、価格低減が必須なのです」と訴える。

「より多くの方が、より効果的で期間の短い治療を受けられるようにするには、治療法の普及に加えて、薬剤耐性結核の検査の拡大も必要です。MSFは結核診断に重要な検査機器 GeneXpert のメーカーであるセフィエド社に対し、結核検査キットの価格を、現在の10～20ドル（約1375～2750円）から、1回の検査あたり5ドル（約687円）以下にするよう求めています」と述べている。

※リファンピシンは、最も効果的な結核の第一選択薬のひとつ。別の第一選択薬であるイソニアジドとリファンピシンの両方に対する耐性を示す結核を、「多剤耐性結核（MDR-TB）」と定義している。MDR-TBとリファンピシン耐性結核は、どちらも第二選択薬による治療が必要。現在、両疾患に推奨されている治療法は同じであるため、互換性があると考えられる。WHOはまた、フルオロキノロン系抗菌薬に対する耐性が明らかになった人を対象に、2番目の短期治療法であるBPaLを推奨している。


以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平、山田瑞穂

携帯：080-2344-0684

E-mail: press@tokyo.msf.org <https://www.msf.or.jp>

 メディア向けツイッターアカウント：@MSFJ_Press